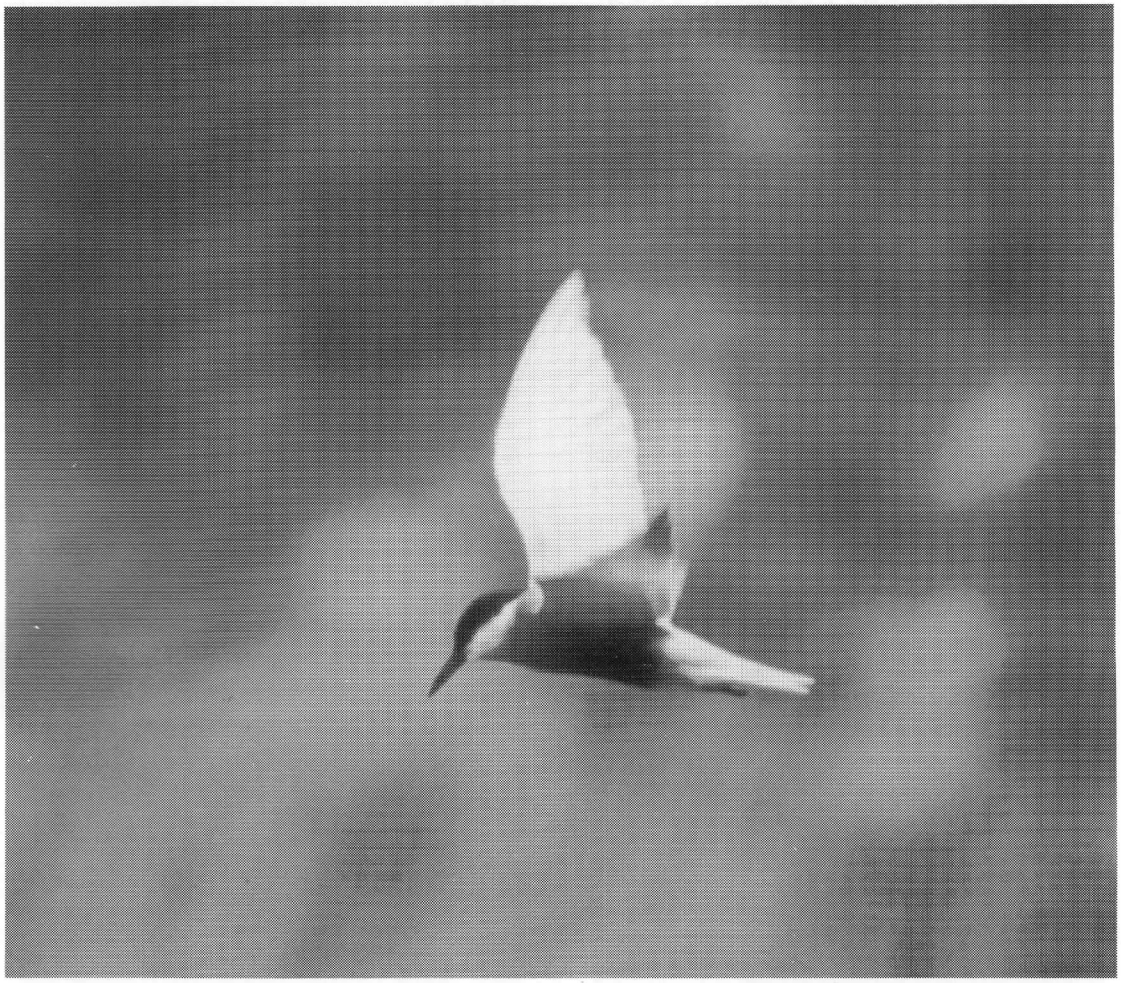
ISSN 0910—2396

野鳥だより
—北海道—

第 109 号
編集・発行　北海道野鳥愛護会
発行年月日　平成 9 年 9 月21日

クロハラアジサシ



1997. 6. 15　　撮影者　新 城　久

〒 001　札幌市北区北27条西16丁目 5 －23

もくじ

石狩川水系生振・茨戸川流域の野鳥(3)
泉　勝統・新城　久…… 2
探鳥会ほうこく…… 8
「野鳥のつどい」写真展リスト……10
野鳥愛護・保護活動のあり方について……11
探鳥会あんない……11
鳥民だより……12

石狩川水系生振・茨戸川流域の野鳥 (3)

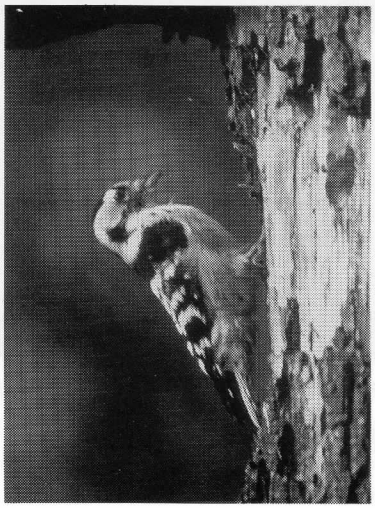
泉　勝統　新城　久

〔１〕 はじめに

1988年以来、標題の地域の野鳥観察を続け、92年３月までのものをリスト(1)とし、95年３月までの分はリスト(2)として発表した。その後に観察したものに加えリスト(3)として記録してみた。観察した野鳥類は季節が限られているものや、極めて数の少ないものが多く写真撮影に苦労した。しかし多くの鳥見仲間の方の協力や厚意を戴き、ようやく10年間の記録を綴ることができた。

〔２〕 地域環境の変化

札幌市手稲区の砂山から、茨戸に至る「紅葉山砂丘列」は、茨戸川・石狩川を渡り、生振・南３線・美登位地区にも一部広がっている。生振では各所に北西風を防ぐ大小の耕地風防林が存在し、特に基線林・筋違林には半自然性のヤチダモ林にミズナラ・ハンノキ・シナノキ・オニグルミ・ニワトコなどを加えて多彩な林相を構成し、その林床も豊かで野鳥の生棲地として昔から格好の地域として残っている。しかしこの10年程の間に乾田化も進み、荒蕪(ブ)地も耕地化され、道路・排用水路・老木の伐採(サイ)などが目立ってきている。沖積世に形成された真勲別の湿原帯も、その規模を狭めてきていて残念なことだ。



コアカゲラ　94.11. 7　野坂　英三

〔３〕 森の野鳥

早春のミソサザイの飛来に始まり、ツグミの群れにシロハラの姿を見ると、鳥見人にとっては楽しく忙しい季節となる。４月に入るとトラツグミ・コルリ等が一休みしていき、５月にはアカハラ・クロツグミ・ウグイス等の囀(サエズリ)りも聴かれ、なお一層多忙となる。

１）コアカゲラ……筋違林の鳥を見ながら北上していった時「あっ、木がない」と同行の野坂英三さんが絶句。コアカゲラが巣穴を作っていた木がないのだという。師走から３月まで手術入院していた泉（K）に電話で、コアカゲラ観察の事を知らせてくれた。早速出掛けて、コゲラ、カラ類の混群に（♀）が入っているのを観察したが、巣穴を作った枯木は見つからなかった。そこで７日に２人で確認に行ったのだ。96年３月10日深い雪の中に伐採された木を見つけた。新城（S）がそれを縦断してK宅へ運んで撮影もした。ほぼ完成した巣穴で実に残念な出来事だった。

２）ヤツガシラ……94年５月に「北大院生高田（当時）氏グループ」が筋違林近くでヤツガシラを観察した事を知らされた。翌年より情報交換をして観察することとした。95年４月12日に南５線で確認。96年４月17日には撮影もできた。97年春は残念ながら観察できなかった。

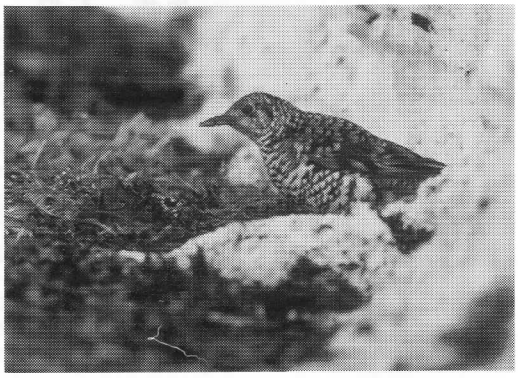
古い記録を思い出し照会したところ、87年４月26日現茨戸霊園近くの農家の電線上で会員の道川富美子さんが観察している。この記録を忘れないでいたので「いつか会えるだろう」という期待感を持ち続けることができた。

3）トラツグミ……生振に住む長老の方々から、昭和初期から中期頃までの営農・治水・森林保護と植林など…色々とお話を聴かせていただいた。野鳥を含め棲んでいた生物の話などはとても楽しく愉快な話が多かった。夜に鳴く鳥を調べようと最終バスを茨戸園で下車。夜道を歩いているとトラツグミの鳴声が聴えた。しかし生振ではないのかも知れない。今考えると無駄とも思える事も多かったのかも知れない。

96年3月6日。相変わらずバス通勤だ。午後2時頃だったろう。林の中にクマゲラがとまったのを見つけ観察を続けた。突然林の中からKの左手に向って低く直飛してくる1羽の大きな鳥がFS（フィールドスコープ）に入った。30分もクマゲラ（♀）を確認。器具をリュックに詰めようとして路上におりたら左手5*m*の路肩で、懸命に落葉を嘴でひっくり返している大きい鳥がいる。トラツグミだ。

翌朝また出掛けた。一面白雪の林道の左手路肩だけがブルで削られ枯草が出ている。遠望すると捨てられた黒いジャンバーが見えるだけ。40*m*～20*m*と近づいて驚いた。この衣の横にピタリと寄り添って微動もせずにトラツグミがいた。30分以上も過ぎてから枯葉を裏返して採餌を始めた。気温が上がって氷がとけるのを待っていたのだろう。11日には狐と人間の足跡が排水路周辺に付いていた。きっと前日（日曜日に追いまくられたのだろう。人間は狐と同様天敵なのだろうか。それでも路傍の採餌は3週間も続いた。）

4）フクロウ……Kが筋違林の探鳥を始めた頃だった。鳥見の大先輩というより先生のような羽田恭子さんに「10年程前には……97年から換算すると約20年前……筋違林でフクロウが繁殖したこともあるんですよ」と教えられた。その時は基線林などには老木が残っていないのかなあと考えたものだ。二冬程基線林をスキーで歩いてみたりしたが遂に息切れして止めてしまった。しかし樹林を専門に勉強した事がないのに、図鑑片手に歩き廻ったのが後々まで役立つとは思わなかった。



トラツグミ　96. 3.11　新城　久

95年1月17日のよる（S）から「夕方筋違林を通って帰ってくる時フクロウがいた。間違いなくフクロウだった」。Sは続いて「少し吹雪いていたし薄暗かったので撮影は駄目だった」と残念そうだった。フクロウについては筋違林では駄目だろうと思い込んでいた（K）は、吹雪が続いているし迷いこんででも来たのかと思ったりした。

同年5月5日。例の筋違林参りに出かけた。南廻りのバスで茨戸霊園で下車後北廻りコースで北6線を南下した。ふと基線林・林縁の横枝に直立したような形でとまっている鳥を見つけた。左路肩に坐りこみ安定した形でよく見ると、それが「まさか」のフクロウだった。30分程時間をかけてゆっくり歩き・座るを繰返して50*m*程の路離で観察できた。翌朝も近くにいた。Sの見たものと同一個体であるかどうかは知るすべはないが、来ることは来るのだなと（S）と話合った。

97年1月25日。（S）は（K）の都合で独りで筋違林に向った。そして浜田・広川さんに「フクロウがいるよ」と教えられた。幸運だった準備OK。2年掛かりの写真は仕上った。

ヤツガシラ　96. 4.18　泉　勝統

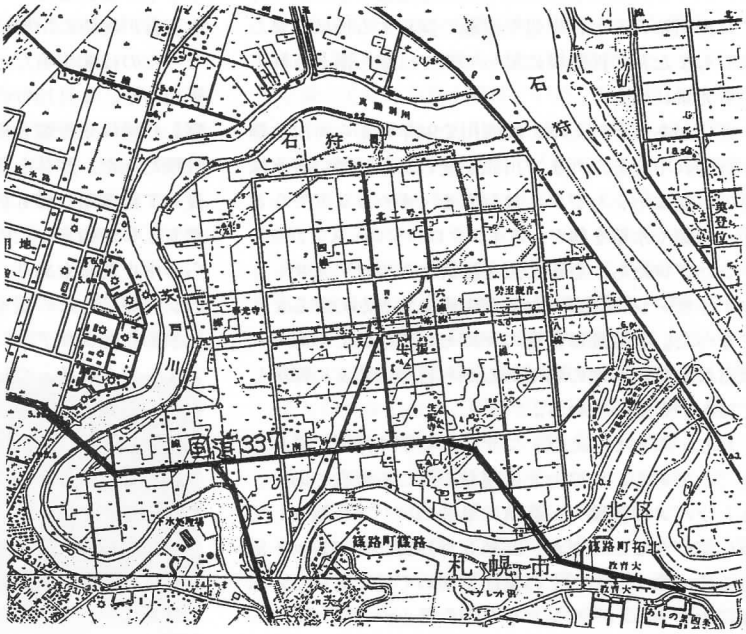
フクロウ　97. 1.25　新城　久

生振・石狩・茨戸川流域の野鳥
1994. 3～1997. 7

No.	種　　名	観　察　地	数	繁殖	摘　　要
45	ハイイロチュウヒ（♀）	茨戸川	冬少		(95 10／30～92　3／10～)
142	シマアオジ	石狩川、茨戸川	夏少	○	(94　5／15～95　5／10～)
163	コサギ	生振湿地	夏少		(95　5／ 1～ 5／ 5) サギ３種同時に飛来 (90年以降ダイサギも毎年飛来)
8	チュウサギ	〃　〃	夏希		
7	ダイサギ	〃　〃	夏普		
43	ノスリ	北生振	冬普	○	(94春に繁殖…… 7／20)
13	コハクチョウ	生振湿地	旅普		(宮島沼解氷せず　94 4／ 2～700羽)
11	マガン	〃　〃	旅普		(　〃　　〃　5羽)
166	オオバン	茨戸川	夏少		(94 12／ 3～95　3／ 5)
46	チュウヒ	筋違林	夏普		(90　6／10・95　5／ 5～97　5／18～)
126	コサメビタキ	〃	夏少	○	(95　6／ 5・97　6／ 1)
189	セグロセキレイ	茨戸川、放水路	夏少		(90　5／16・94　5／10)
190	イカル	真勲別	夏普		(90　6／10・94　6／14)
191	コウミスズメ	茨戸川	冬稀		(94　2／ 2　落鳥を保護、茨戸川に放鳥)
192	コオリガモ	茨戸川	冬少		(94　3／15～ 4／ 5・95　4／ 1～)
193	キアシシギ	茨戸川浚渫地	旅少		(96　8／15・93　7／ 7)
194	ハチクマ	真勲別	夏少		(94　8／27～ 9／24　1羽赤色型)
195	フクロウ	筋違林	留少		(95　1／17　5／ 5・97　1／25)
196	ヤツガシラ	南５～南７線	旅稀		(95　4／12・96　4／17～ 4／20)
197	カラシラシギ	新川～古篠路川	迷稀		(95　4／23～ 4／25)
198	ヨタカ	筋違林	夏少		(95　5／ 4・97　5／13)
199	マダラチュウヒ（♂♀）	生振湿地	旅稀		(95　5／ 5・96　5／30・97　5／27)
200	エゾムシクイ	筋違・基線林	夏少	○	(95　5／14・97　5／10～ 6／ 5)
201	ムギマキ	石狩川左岸	夏少		(95　5／12・97　5／18　広川)
202	エゾビタキ	筋違・基線林	旅少		(95　4／17・96 10／11)
203	ヘラシギ	茨戸浚渫廃泥地	旅少		(95　8／31　トウネン７羽)
204	ツバメ	茨戸川・拓北	夏普	○	(95　5／19・96　5／ 6・97　5／10～ 7／20)
205	コホオアカ	生振湿地	旅稀		(95　5／28～ 5／30　ホオアカと一緒)
206	クサシギ	〃　〃	旅稀		(95 10／10　10羽飛立ち１羽残る)
207	コアカゲラ	筋違林	留稀		(95 11／ 7～96　2／ 1～ 3／31)
208	トラツグミ	〃	夏少		(96　3／ 6～ 3／22)
209	ハギマシコ	茨戸川右岸	冬少		(96　3／22～ 3／24) 40羽
210	ナベヅル	生振湿地	旅稀		(96　4／ 6～ 4／ 9　迷行)
211	マミチャジナイ	石狩川堤防	夏少		(97　5／11　1羽♂)
212	ハジロクロハラアジサシ	生振湿地	旅稀		(96　7／14)
213	ヤマシギ	生振南２線	夏少		(97　4／ 4～ 4／26)
214	コルリ	筋違林	夏少		(97　4／30～ 5／ 3)
215	クロハラアジサシ	生振湿地	旅稀		(97　6／15)
216	コベニヒワ	生振北７線	冬稀		(97　1／15　ベニヒワ50羽の中に)

ナンバーは、これまで観察された鳥の数の通し番号を示す。
二本線より上は以前「野鳥だより」に報告済みのものを示す。

5）ヤマシギとヨタカ……Kは自分なりの探鳥暦（コヨミ）を作っている。97年度も3月中旬になると宮島沼のガン類の飛来状況と組合せて、茨戸川のワシ類調査をする。石狩川周辺とを合せてオジロワシ28（±）羽・オオワシ成鳥2羽で近年になく多かった。4月4日永島夫人の車に同乗させてもらい宮島沼へ行った。帰途生振で探鳥して帰宅した。



翌日電話があり、南2線の小さい林でフキノトウを採ろうと入ったら、林床からヤマシギらしいのが飛んだということだった。4月5日出掛けてみる。最近道路網が整備されるまでは、ほとんど人の通らぬ道で廃道かと思われているところだ。林床は雪がとけほとんど下草が無いに等しく、枯笹が一部に見られるくらいの所だ。静かに林に入った途端に飛ばれてしまった。その後4月26日に姿が見えなくなるまでN夫妻・Kも連続出掛けたが失敗ばかりで、姿を見つけたら飛ばれての毎日だった。Sは休日になるとKと共同してカメラを据える。しかし木の間を巧みにぬけて飛び去ってゆく。とうとう今年は駄目だった。来年もやって来るのだろうか。

この期間中に何度か気分転換の為、南へ下って見たりした。1軒の民家の近くに小さく明るい林がある。アカハラなどの見られるところだがまだ早い。けもの道のような小道を久し振りに入って見た。小さな倒木の上に腹ばいになった格好でヨタカが1羽。瞬間長い翼を上下させて木の隙間を低く飛んだ。慌てて反対側から廻って観ると、民家の庭の老木の横枝に、這（ハイ）いつくばったような形でとまっている。木陰にかくれFSでゆっくり観察することが出来た。勿論Sなしの単独行なので写真をとれなかったのは残念としても、このような場所を好んでいるのだと知ることが出来たのは、大きな収穫であった。

野鳥の生態を知らないで、林の荒れてゆくことばかり心配していたことを深く反省させられた1日だった。

〔4〕 茨戸川と廃泥地

茨戸川は旧石狩川がショートカットされ、下流部は細い運河で石狩川に繋（ツナ）がり、広い放水路で石狩湾へ直接流されている。この流域は春秋になると採食・休息のためにくるガン・カモ類・ワシタカ類も多く集まる。河川で忘れられない事は、その周辺部にある河畔林や大小の草地や湿地があることだ。茨戸・石狩川周辺の野鳥観察では欠かせぬ大切な場所である。

1）ヘラシギ……1995年8月31日。久し振りに茨戸浚渫場へ行ってみた。廃泥地がまた新しく堀られている。新しく廃泥しているところにトウネン7羽採餌中。1羽はどうも違うので若鳥では…。ところが体位を変え正面を向いた。ヘラシギだった。この前後にキアシシギ(1)アオアシシギなどを観察している。

ヘラシギ　95. 9.17　新城　久

2）茨戸川の渡り鳥……9月下旬になると、次々とカモ類が入り始める。リスト(1)で発表したものと大きな変化はないが、近年は渡りのコースがずれたといえるほどではないが、茨戸中流より真勲別川と合流点近くになった。相当の数が舞い降りているが距離が遠いの

でエクリプスであるカモ類の識別は困難が多い。10月の狩猟期に入ると、岸辺や浅瀬で採草する種は、撃たれてもまた元の採餌場に戻って来ては撃ち落とされている光景に出会う。

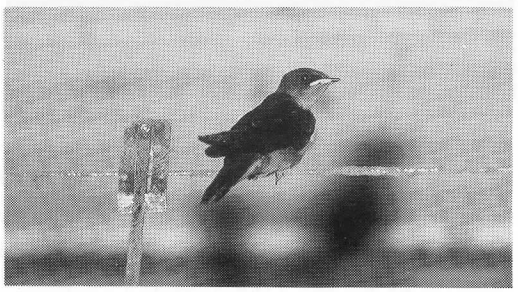
変化があるといえば、創成川で94年頃から河川改修が行われ中流あたりまで川底が浚われた。深い潜水採餌の可能なホシハジロ・ヨシガモ・オカヨシガモなどが、貝類や水草を餌とするキンクロハジロ・スズガモ・ホシハジロたち、さらに魚を採餌するカワアイサ・ミコアイサ・シノリガモなどが中流までさかのぼるようになった。上流部は夏場のマガモの繁殖地でもあり、豊富な魚類の繁殖の場であるから自然のままに保護してほしいと願っている。

珍しいことといえば、コオリガモが4月頃に見られることである。カワセミは現在のところ健在である。

3）ツバメの繁殖……春秋に単独のツバメを観察して特に気づかなかったが、95年5月19日にペケレット沼近くの水面で40羽以上の集団を初めて見て驚いた。水面に近づきホバーリングしながら風上から流れて来る虫を捕えているのだ。素晴らしい光景だった。6月3日に岸の森で上昇気流に乗った虫を追って入道雲のように急上昇する群れの様子に茫(ボウ)然とした。それから毎日拓北地区を歩き廻り、遂に物置と牛舎に営巣しているのを見つけた。

96年春5月6日、茨戸川にまたツバメがやって来た。今年は上流へ移動する。拓北にも営巣したが、大群は右岸方向で激しい動きをする。福移の牛舎群に営巣地を見つけた。

7月25日まで各地で観察できた。97年も同様茨戸川で5月10日に初認。拓北のN牧場では営巣撮影ができた。福移では、J・Sさんから5年前からの状況も教えられた。牧草が成長する昆虫発生期に群集して2度営巣する。食住の条件が良い牧舎は最良の繁殖地なのだが、営農者の立場からの考え方に多く学ぶところがあった。Kは数十年前に地理学演習で『聴き取り調査』について教授に厳しいマナーを指導された事をふと思い出した。



ツバメ　96. 7. 2　新城　久

〔5〕　生振湿地

石狩川堤防の川岸にある低湿地に野鳥が目立つようになったのは90年頃だと思う。特にシギ類が増えたのは93年だった。4月10日のトウネンに始まり、9月までに観察した種はサギ類5種・シギ類29・チドリ類6・カモ類11種だった。叢林を残す草地性の鳥も33種にのぼった。従って猛禽類の種も数も増した。しかし、河岸の沼地の埋立工事が始まったのも同年7月23日だった。各方面からの中止要請もあり、工事が中止された。だが翌年は春のシギ類は、この湿地を避けて通過が多くなり、草地の代表的存在シマアオジも激減していった。

1）マダラチュウヒ……94年3月から5月にかけて、この湿地で観察中、しばしばチュウヒ類が飛来するのに注目した。茨戸川でハイイロチュウヒ（♀）を2度観察しているからだ。ほぼマダラチュウヒ（♀）に間違いないと思った。

Kが12月に凍結路面で転倒入院手術（～2月）、10月には左大腿部悪性腫瘍で入院‥‥さらに通院と95年度をすっかり棒に振った。そこでSに、1）尾に細い黒線がある2）上尾筒が白い‥‥チュウヒ類の写真を撮って見るがよいと話した。

95年5月14日飛翔写真撮影成功。しかしもう1枚の写真が必要だ。‥‥前方や、斜めに撮ることだ。Sは懸命に写真を持って来た。草の中の‥‥識別困難。正面のものこれも駄目。6月3日夜「初列風切の横斑」の見える写真が取れた。Sの毎日の努力の結果だ。マダラ・ハイイロチュウヒの識別は最低2～3枚の写真が必要だった。

この写真3枚を「BIRDER」に早速送って識別を依頼した。詳細は同誌（※1）に記載されているので、紙数が限られているので省略した。追記すれば95年6月10日早朝にマダラチュウヒ（♂）を、97年6月22日マダラチュウヒ（♀）が（♂）に追われて対岸に逃れるのを見ている。

マダラチュウヒ　95. 5.14　新城　久

2）ナベヅル……97年4月頃に宮島沼でか、牧野さんに暫く振りでお会いした。その時にふとナベヅルの写真の話をした。「写真はないがビデオには撮ってある」

という事で早速お借りして写真にしてみた。残念に思っていた鳥の写真を見つつ、96年4月3日の事を思い出した。

生振湿地周辺を足のリハビリーのつもりで歩いてみた。石狩川を上流へ下流へと飛んでいる5羽の大型サギのようだが確認できなかった。4月6日桝川御夫婦のお誘いを受け同行した。植苗でマナヅルを見て来て、それではあの鳥は何だったのかと思い、8日～10日と石狩美登位に出掛けてみることにした。

9日に美登位周辺で3羽のナベヅルを見つけた。タクシーなので長時間の観察も不可能。帰途が大変なので10分程であきらめざるを得なかった。牧野さんのご好意を感謝している。

ナベヅル　96. 4. 6　牧野　洋子

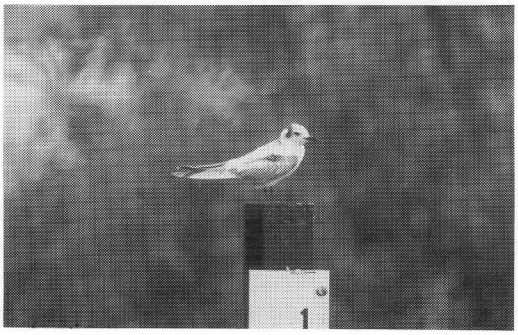
九州まで行かずに「マナヅル・ナベヅル」を観察することができて嬉しさいっぱいだった。

3）カラシラサギ……95年4月23日。隣の町内会の自営業H氏が昼過頃来訪した。「古篠路川のあたりに大きい白サギみたいのが降りた」と知らせに来てくれたのだ。車に同乗させてもらい急行した。いつもはマガモ・アヒルが採餌している程度で、川というほど広くもない浅瀬にポツンと立っている白サギ。嘴は黄色で後頭に房状の飾り羽が揺れている。コサギではない。4～8月に稀に現れる珍鳥だ。30分も観察しているうちに、ふわりと石狩川方向に翔び去った。翌日念のためにと生振湿地に出かけて見た。24日には素早く飛び立ったが、25日朝には帰って来ていた。

カラシラサギ　95. 4.23　広川　淳子

後日浜田・広川さんに新川川口付近でカラシラサギの写真（4／23）を撮ったが風が強くて衰弱しているように見え、すぐ飛んだという話だった。帰って野帖を調べて見ると風を避けていたシラサギと同一個体のような気がした。広川さんが「ワキアカツグミ・カラシラサギの写真」を送ってくださったので厚意に甘えて今回のリポートに使わせていただいた。

4）ハジロクロハラアジサシ……96年7月14日。Sは仲間の赤石さんと一緒に写真撮影に出掛けた日なので、Kは休養日にした。2名は各地で観察・撮影を終えて13時頃生振湿地に到着した。秋の渡りはまだ早いが、湿地には通過する稀な鳥が休息のためか、姿を見せることが少なくない。観察中に石狩川水面を上流へ、そして下流へと飛ぶアジサシ類を見つけて撮影した。広川・浜田さんも観察していた。ハジロクロハラアジサシの若鳥ではないかという電話がKのところに入った。Kは92年10月7日に石狩川河口付近のブロック消波堤の上に、ユリカモメ3羽と一緒にとまった、この種の鳥を見ている。後日届いた写真を見て同一種と判った。



ハジロクロハラアジサシ　96. 7.14　新城　久

5）クロハラアジサシ……97年6月15日早朝から生振湿地に出かけるS。Kは苫小牧の実姉が死去で不在だ。日中ずっと撮影することにした。8時半頃から石狩川を上下流に飛ぶ中型の鳥を見つける。生振湿地に入ったり、石狩川に戻ったりして、なかなかシャッターチャンスを与えてくれない。夕方まで撮影している中で何コマかがものになりそうだ。14時頃姿を見せなくなった。

ある高さで水平に飛びながら餌の魚を探し、餌になるものを見つけると舞い降りて、嘴でつつくように魚を捕えたりする。どうも図鑑を見るとクロハラアジサシのようだが、どんな姿のものが良く撮れているか判らない。

翌日写真店にプリントを依頼した。仕上りを見たら飛翔中のものが最も識別しやすく、ピントも良かった。（写真は表紙のもの）

〔６〕 まとめ

10年間は本当に早かった。探鳥前夜は天候如何で、場所・公共の乗物・雨具の要などをチェックしておいて、できるだけ翌朝に備える。少々の降雪などを気にしていたら冬の水鳥などは見られない。

それに５年間は野鳥だよりの編集日程を空けておかなければならなかった。でも楽しい探鳥散歩の日が多かった。

Ｓさんと一緒に探鳥するようになったのは92年頃かと思う。しかし鳥見屋と、野鳥撮影者とは行先や行動の仕方に違いがあるので、休日といえど一緒するとはかぎらない。Ｋが94年末に発病・入院その後の療養と続いて、ようやく独り歩きが許可されてから、毎月の休日に同乗させてもらっている。なおこの10年間に志田ご夫妻・桝川ご夫妻には遠出の探鳥の都度お世話になった。後半は永島夫人・広川淳子さんに同乗させて頂き迷惑をお掛けした。

リポート(3)をまとめるにあたり感謝申し上げます。また「札幌市生振村民だ」といって笑っておられた住民の方々や、困惑した際に色々とご指導いただいた羽田恭子・島田明英先生に厚く御礼申し上げます。

なお「記録簿の中のコホオアカ・クサシギについては後日機会を得れば発表したいと思っています。」

（文責　泉かつつぐ）

〔参考資料〕

※1　BIRDER（1996年12月号　P71）
※2　野鳥だより87号（Ｐ６～13）
※3　野鳥だより95号（Ｐ８～10）

泉　勝統　　札幌市北区篠路２条３丁目11－１
新城　久　　同　北区北27条西16丁目５－23

千歳川周辺一泊早朝探鳥会

９．５．10～11
佐藤博康

生まれて初めて探鳥会というものに参加しました。職場に鳥に詳しい人が来たのがきっかけで、鳥を探すようになって約１年です。餌台に集まる鳥に感動しては家の近くに餌台を作ってみたり、鳥のポイントを教わっては出かけてみたりと、まず見ることができないと思っていた鳥たちが、最近は身近に感じられるようになってきました。

そんななか、あるチラシで千歳川周辺の早朝探鳥会が行われることを知りさっそく申し込んだのですが、申し込んだ日が前日の９日夕方で、担当された方々にはご迷惑をかけてしまったかなと反省しています。

11日の早朝、続々と集まってくる参加者の中で「コルリ・オオルリが見てみたい。ヤマセミ・カワセミ・アカショウビン、どれか１つは会いたいな！」と思いながら、会えるのを楽しみに歩いていました。

早朝に林道を歩くだけでも十分楽しく、しかもたくさんの野鳥が姿を現してくれました。会に参加された方々が持っている大きなスコープを何度も覗かせてもらいながら、スコープの中のキビタキやキセキレイの鮮やかな色に驚き、念願だったあのオオルリに道案内をされるかのように近寄っては枝にとまり、何度も間近にみることができました。ダムに着いたらヤマセミが飛んでいくのが見え、大変興奮しながら最後まで見送ったことも忘れられません。

会の最後に、今日確認された鳥の名前が発表され、40数種類の鳥のうち、自分は約30種類ほどしか分かりませんでしたが、それでも新しい鳥とたくさん出会え、とても楽しかったです。

初めてお会いしたにもかかわらず親切に教えてくださり、大変感謝しております。ありがとうございました。

〒058 様似郡様似町栄町191～１

［記録された鳥］アオサギ、トビ、ツミ、マガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、オオジシギ、キジバト、アオバト、ツツドリ、ヤマセミ、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、コマドリ、コルリ、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、ベニマシコ、ニュナイスズメ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、以上47種

［参加者］浦澤鉄太郎・則子、板田孝弘、武沢和義・佐和子、山田甚一・れい子、佐藤博康、佐藤聡子、沢部勝、村田静穂、大町欽子、栗林宏三、柳沢信雄、高橋利道、鷲田善幸・幸江・直樹・あすか　以上宿泊19名

中正憲佶・弘子、永島良郎・トキ江、野口正男、山田としえ、戸津高保・以知子、木村与吉、渡辺吉宗、久田伸一、道場　優、小堀煌治、山田良造、宮崎孝子、小川秀子、以上当日参加16名　合計35名

［担当幹事］栗林宏三、永島良郎、中正憲佶

小鳥たち感動をありがとう
ー野幌森林公園平日探鳥会ー
9．5．15 石井裕子

昨年の愛鳥週間に探鳥デビューし、今回で3度目の参加になります。小雨の中、カッパに長靴のいで立ちで12名程の参加者、柳沢会長さん始め世話人の方について歩き始めたところ、すぐにオシドリのつがいが、木の上で「雨の中をようこそ」と歓迎するかのようなスタートでした。幸先よく今日は、珍鳥に出会えるかなど内心思いました。姿は見えないが「アーオー」と存在をしらせてくれたアオバト、続いて「ポツポツ」とツツドリ。どこからともなく虫の音のように「リーンリーン」と鈴のように鳴いていた不明の鳥、ちょっと気がかりです。松川の池では、何故か、キンクロハジロが1羽、寂しく？ゆっくり泳いでいました。途切れ気味に聞こえていたのが、ややもすると演奏会のように自慢の喉を競う場所に出くわす。新緑の木々を右往左往する鳥たちと、かくれんぼ「さあ探してごらん」といわんがかりに飛びかう。二つ目の池「大沢の池」では私にとっては、初めての、カイツブリとの出会い、会員の方のスコープを拝借し、双眼鏡では見づらい繁みの中のツーショットを、その場を離れようとしたら突然「ケレケレ」と鳴き声も聞かせてくれてありがとう。昼食の後、帰路のカラマツコースでは、すっかり雨も上がり今回のクライマックス胸が鮮やかな黄色のキビタキいろいろなポーズを間近で堪能させてくれたオオルリ、又センダイムシクイのさえずりから柳沢会長さんの古くからの伝来の「聞きなし」を大切に鳴き声と重ねたらいいと教えていただきました。こんなにも感動を与えてくれた野鳥たちのためにも住みよい森を護っていかなければとつくづく思った一日でした。

〒004 札幌市厚別区厚別東3条6丁目4～10

［記録された鳥］カイツブリ、アオサギ、トビ、オシドリ、マガモ、キンクロハジロ、キジバト、アオバト、ツツドリ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、モズ、クロツグミ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アオジ、カワラヒワ、ニュウナイスズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス　以上32種

［参加者］富田智恵、石井裕子、内山淑子、高橋盛雄、蒲澤鉄太郎・則子、中保田公子、柳沢信雄、山田良造、中正弘子、藤森章子　以上11名

［担当幹事］柳沢信雄、山田良造

鵡川河口探鳥会
9．5．18 山下　茂

本日は私が住む鵡川町での探鳥会。今回は、野鳥愛護会の行事に、鵡川の自然愛好会（昨年発足し、町民参加のシギ・チ観察会を2回実施）主催の観察会が仲間入りしました。

集合は、4月27日にオープンしたばかりの「四季の館（温泉ありの多目的施設）」。愛護会会員30名、地元の鵡川より11名の参加です。一週間前には、苫小牧支部のバードソンで「オオチドリ」、「オオハシシギ」、「ボナパルトカモメ」、そして、その翌日には野鳥愛護会の佐藤幸典さんが「ムネアカタヒバリ」、「マミジロツメナガセキレイ」を観察しています。本日も珍鳥に会える時期を抱きスタート。

牧草地の入口は、いつものように「ノビタキ」に迎えられ、旧本流跡には「ダイサギ（大陸系か）」、草地ではピピピ……と鳴く「チュウシャクシギ」、河口域では昨日の雨と潮が重なり、干潟部分が少ないものの、「キアシシギ」、「ハマシギ」などを観察。本日は、個体数こそ多くありませんでしたが、種類数は40以上。風の強い寒空としてはまずまずの結果となりました。

鵡川河口は、渡り鳥の中継地としては、道内のみならず全国的にも重要な場所です。北海道では数少ない干潟のひとつであり、比較的変化に富んだ河口域です。この一週間の珍鳥ラッシュを見ても理解できます。ところが、残念なことに、干潟はかってと比べ、大幅に縮小し、野鳥の飛来数は減る一方です。

昨年は、開発局と町が主体となり、「河口のあり方」について地元関係団体と懇談会が持たれました。具体的な方策は見出されていませんが、一応「保全に関し」前向き名姿勢になりつつあります。また、河口域（ＪＲ日高線鉄橋下流）は、来年の10月より道の鳥獣保護区に指定される予定です。少なからず、やや良い方向に向かっているのは確かなようです。

しかしながら、現在、私たちが最も希望することは、保全だけではなく、失われつつある河口域（干潟など）の再生です。海岸浸食など大きな課題を抱えており、解決には多くの事を要します。私たちの手で関係機関や多くの人にアピールし、20年前のようにシシャモが溯上し、シギ・チドリが数多く飛来する鵡川、いや北海道の「宝物」を是非、取り戻したいものです。

〒054 勇払郡鵡川町文京町1－11－10

［記録された鳥］ウミウ、アオサギ、トビ、ヒドリガモ、コガモ、カルガモ、オナガガモ、カワアイサ、ダイゼン、シロチドリ、チュウシャクシギ、イソシギ、キア

シシギ、オオジシギ、ハマシギ、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、シロカモメ、ユリカモメ、ミツユビカモメ、アジサシ、キジバト、ヒバリ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、ノビタキ、ホオアカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト、ダイサギ、コアジサシ、アマサギ　合計40種

［参加者］鈴木倫太郎・みどり・森太郎・岳二郎、清水朋子、今泉秀吉、栗林宏三、板田孝弘、山田良造、成沢里美、佐藤ひろみ、柳沢信雄・千代子、横山澄子、樋口孝城・陽子、富川　徹・優、羽田恭子、横井澄子、浦澤鉄太郎・則子、中正憲佶・弘子、中村　茂、永島良郎、トキ江、菅間慧一・きみ子、井上公雄

［ネイチャー研究会 IN 鵡川］山下　茂ほか10名　以上合計41名

植苗・ウトナイ・めぐりあい

9．6．8　犬飼　弘

輪厚は天気を二分すると云われるとおり、井上さんおまかせの同乗者三名の車は陽の札幌から冷風曇りの植苗駅前に到着。当日の苫小牧の最高気温11℃ましてや湖畔、川べりは更にそれを下廻っていたでしょう。

昭和時代のような駅前の彼等の出向えのコーラスのにぎやかさもなくカンコドリが鳴いていた。

ここ数年初心に返ったと前年度の野鳥便りの記録再現を心がけ33種のうちノビタキ、アカハラ、ホホジロ、ホオアカ、シマアオジそしてベニマシコにピンクのマークをつけていました。特にアカハラのキョロン、～～ツの美声は聞くことを第一目標に二・三日前からイメージ強化の自己暗示を重ねていました。

一番手はキビタキ、3シラブルの美声、センダイムシクイの歯切れの良い終音 been、アオジの金属音、マキノセンニュウの虫の音に似たチチ、勿論コヨシキリのトレモロの発するエネルギーが冷たい空気を少し暖かめてくれました。またウグイスの道案内ぶりもなかなかのものでした。特許許可局は行政予算節減の折柄か発声の一声なく残念。

終盤にあたってみなさんやや興奮気味。さけて通った水たまりに対のベニマシコがいたというのです。3月に神宮境内で三十分もベニバラウソを観察できた幸運男だったのにと、マシコを待てど姿なし。

帰路は井上さん外3名、久しぶりでブッシュこぎの道を選択。ヒメイズイ、モウセンゴケ、ユキザサそして久しぶりの野性のスズランの小群観察。

札苗駅前に何年もあっていない会友鈴木克司さんの姿が見える。過し日の昔の札苗の草原の強い日ざしと小鳥たちの合奏がよみがえってきた。鳥持つご縁をありがたく大事にしたい。

［記録された鳥］アオサギ、トビ、チュウヒ、コブハクチョウ、ヨシガモ、マガモ、オオジシギ、ウミネコ、キジバト、カッコウ、ヒバリ、ショウドウツバメ、イワツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ノビタキ、ウグイス、マキノセンニュウ、コヨシキリ、センダイムシクイ、キビタキ、シジュウカラ、ホオアカ、シマアオジ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス　以上32種

［参加者］浦澤鉄太郎・則子、広木朋子、高橋利道、柳沢信雄・千代子、横井澄子、羽田恭子、高橋浩幸、樋口孝城・陽子、後藤義民、松原寛直・綾子、竹内　強、田子元樹・園江、森田新一郎、内木弘三・正枝、犬飼　弘、板田孝弘、戸津高保・以知子、山下和子、渡辺好子、中田アヤ子、井上公雄　以上28名

［担当幹事］竹内　強、井上公雄

「野鳥のつどい」写真展リスト

H9．4．29～5．15
於：カメラの光映堂フォトギャラリー

朝倉　清司	シジュウカラガン、キジ
石橋　孝継	ユリカモメ、オナガガモ
伊東　裕二	オオジュリン
遠藤　美浩	アオバズク
尾田　和夫	カワセミ、ウグイス
小堀　煌治	ホオジロガモ、コマドリ
後藤　義民	カワウ、ヤマガラ
佐藤　　勇	ヤマセミ、ウグイス
佐藤　幸典	クマゲラ、キマユツメナガセキレイ
志田　博明	ウミアイサ、キアシシギ
渋谷　信六	ヤマヒバリ、アカエリヒレアシシギ
新城　　久	コサギ、チュウサギ
髙橋　浩幸	イスカ、エナガ
田子　元樹	イスカ、ツグミ
富川　　徹	アオサギ、コチドリ
星子　簾彰	オオハクガン、マガン
柳澤　信雄	アメリカヒドリ、キバシリ
山田　良造	カラシラサギ、オジロワシ

以上18名　34点

野鳥愛護・保護活動のあり方について
―― ご意見をどうぞ ――

本会は昭和45年に創立しており、会の目的は、会則第３条において「野鳥愛護活動の実践および野鳥知識の普及を図るとともに野鳥保護の運動を通じて会員相互の親睦を図ることを目的とする」としております。本会のこれまでの活動は、探鳥会、野鳥だよりの発行など野鳥知識の普及活動を主体に行ってきているところです。

ご承知のとおり、最近は自然との関わりを目的とした多くの団体があり、全国各地で野鳥愛護、自然保護活動が盛んに行われるようになってきております。

このような中にあって、本会は「野鳥を愛護・保護」するという明確な目的あるいは意識をもって保護又は調査活動等をほとんど行ってこなかったのが現状であります。

しかしながら、最近になって本会の探鳥地の一つである野幌森林公園に隣接した地区における学校の建築あるいは北海道が計画している休養園地の設置、当公園内で営巣していたアオサギの逸散問題などが続けて起きております。これらの問題は、これまで会員が個人的に関わって対応してきておりましたが、会自体としても、最早看過できない状況になってきていると考えております。

野鳥愛護活動のあり方については、本年度の総会でも取り上げられ検討問題となっており、幹事会において検討の結果、野鳥愛護・保護の必要性に関する認識は一致しており、また、関係機関から開発行為による影響等について逆に意見を求められていることなどを考えると、会として活動を行っていくべきとの意見が大勢を占めておりました。

まだ最終的な結論は出しておりませんが、会員の皆様の意見を聞いて判断したいと考えており、どのような問題についてどこまで取組んでいくのかといった難しい部分もあろうかと思いますが、忌憚のないご意見をお寄せいただきたくお願いいたします。

代表幹事　白　澤　昌　彦

【ウトナイ湖】

平成９年11月９日（日）

暦の上では冬、その年によっては初雪の時期でもあります。越冬地へ向かうひととき湖面で休むハクチョウ、マガン、ヒシクイ、ヒドリガモ、ヨシガモ、冬の水辺で見られるミコアイサ、カワアイサ、ホオジロガモ、この時期から姿を現すオジロワシ、オオワシ、そして残っているアオサギはいるのでしょうか。また慮外な鳥がいることもあります。暖かい身仕度で参加しましょう。

集　合＝９時40分　ウトナイ湖畔（旧レイクランド側駐車場）

交　通＝道南バス（苫小牧行き）新千歳空港発
　　９時10分　ウトナイ湖・レイクランド下車

【小樽港】平成９年12月14日（日）

主に冬の海でしか見られない海ガモ類を観察します。人気者のウミスズメ、ウミガラス、ケイマフリ、特に美しいホオジロガモ、シノリガモ、ウミアイサ、大型のアビ、オオハム等殆どが潜水性の鳥です。バスで各ポイントを回る見どころの多い会です。寒いですから防寒に気を配りましょう。なお、バス利用になりますので申込制になります。

集　合＝午前10時　ＪＲ小樽駅待合室

申込先＝白澤宅（011）563－5158
　　午後６時～８時の間にお願いします。

締　切＝12月７日（日）まで

参加費＝1,000円程度の予定で、当日受付の際に納めていただきます。なお、当日自家用車で小樽に行かれる方も必ずバスを御利用下さい。

【藤の沢】平成10年１月18日（日）

会としては年一度だけ暖かい室内からバードテーブルに集まる鳥たちを観察します。コゲラ、アカゲラ、ヒヨドリ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、シメ、カケス等平凡な鳥ばかりですが２～３メートルという身近な距離でゆっくりと見ることが出来ます。

また小沢さんのおばあちゃんご自慢の豚汁を味わいながらの鳥談義の中から意外な情報を得ることもあります。

集　合＝午前10時　白鳥園（南区藤野693～１）

交　通＝定鉄バス（定山渓線）藤野３条２丁目下車
　　藤野スキー場方向へ徒歩約20分

参加費＝500円（予定）

【野幌森林公園を歩きましょう】

平成９年10月５日（日）　11月２日（日）
　　12月７日（日）

集　合＝大沢口駐車場入口　午前９時

☆いずれの探鳥会も余程の悪天候でない限り行います。
☆交通機関を利用される方は各自でお確かめ下さい。
☆昼食、雨具、観察用具、筆記具をご持参下さい。
☆探鳥会の問い合わせは（011－851－6364）柳沢宅へ。

会　員　名　簿（追補）

平成９年９月１日現在

［新しく会員になられた方］

飯嶋良朗	01566 4－3434	081	上川郡新得町西２南１－20－１
亀田悦子 真志保	852－0043	062	札幌市豊平区月寒西２条10丁目
蒲澤鉄太郎 則子		063	札幌市西区西町北13丁目２－３－108
沢田浩一	721－3430	065	札幌市東区北15東６－227－29
岡部誠 美恵子		062	札幌市豊平区平岸１条６丁目３－56－308
川路則友	0298 73－3211	305	茨城県稲敷郡茎崎町松の里　森林総合研究所
樋口修策 陽子		064	札幌市中央区宮の森２条17丁目14－３
横井澄子	896－8792	004	札幌市厚別区厚別中央５条４丁目16－26　コーポ白井201
速藤尹希子	813－9426	062	札幌市豊平区中の島１条４丁目７－１－406
松原寛直 敏子 綾子	385－0325	069	江別市野幌東町５－13
広木朋子			
河崎国広	642－1471	060	札幌市中央区大通西26丁目２－10　オ･ドミール円山公園430
山田甚一		064	札幌市中央区北２条西26丁目

［住所変更等］

矢野利行		001	札幌市北区新川西１条３丁目11－12
島田明英		062	札幌市豊平区月寒東５条９丁目３－17 マンションにれ７号
大垣内四郎	01634 7－8161	098－51	枝幸郡中頓別町字敏音知（ビンネシリ）
田中理香	897－3867	004	札幌市厚別区厚別東５－３－24－10－207
鈴木克司	842－7573	062	札幌市豊平区平岸４条13丁目７－28－403
竹内強	882－3298	004	札幌市豊平区清田５条１丁目２－７
安田鎮雄	857－7032	062	札幌市豊平区月寒東３条18丁目15－16
松野誠也		061－21	札幌市南区澄川４条４丁目11－９
高橋千尋		001	札幌市北区新琴似５条２丁目１－２－Ａ－1108
岡田幹夫		044	虻田郡倶知安町北４条東６丁目　共第３職員ＡＰ106号
川端正晴	0143 87－0910	059	登別市若草町３丁目20－４
佐々木武巳		006	札幌市手稲区前田３条10丁目３－16
溝井茂	01537 5－1361	086－02	野付郡別海町別海緑町38－１　緑アパート202
相木大嗣 孝子	665－1030	063	札幌市西区発寒７条７丁目４－12

鳥民だより

◆愛護会の名入りカレンダーの販売について

平成10年（1998年）度版カレンダー100部、先着順で販売します。頒価1,000円。申し込み、問い合わせは、ＴＥＬ011－851－6364柳澤信雄会長宅まで。

◆新年講演会、スライド映写会のお知らせ

日時　平成10年１月10日（土）13時30分～

場所　未定

会費　500円（予定）

講師および演題は次号で詳報いたします。

○恒例のスライド映写会

発表ご希望の方はスライドのご用意を。

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 個人2,000円、家族3,000円（会計年度４月より）　郵便振替 02710―５―18287

〒060　札幌市中央区北３条西11丁目加森ビル５・六階　北海道自然保護協会気付　☎（011）251―5465